

第1号議案 平成25年度事業状況報告について

1. 民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備
日本の民族学研究史、探検史、梅棹忠夫の学問体系の成立過程の解明などに関する参加型・成長型の梅棹忠夫デジタルアーカイブズの構築の基本情報の整備を実施した。

平成25年度の整備内容

①モンゴル資料の整理：現地におもむき1944～45年の調査地・行程を確認

②デジタル画像化（スキャニング）作業件数：8,500件

※これまでの作業をもとに梅棹アーカイブズの全リストを作成。

平成26年度から民博WEBサイト上で個別リストや画像データを順次公開する予定。

- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
国立民族学博物館友の会会員をはじめ、一般市民を対象とする家庭学術雑誌『季刊民族学』の編集、発行。世界の諸民族の社会と文化に関する正確な情報を、学術研究の成果にもとづきつつ、平易な興味ぶかい表現で提供。平成25年度は『季刊民族学』4号（144号～147号）を編集、発行した。

144号：特集「機織りの現場から」

145号：特集「水を考える」

146号：特集「暮らしの節目と自然の節目」

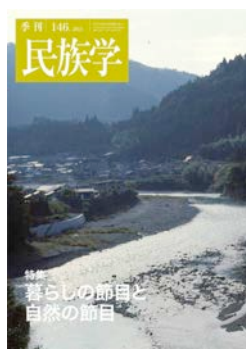
147号：主な記事「万国喫茶往来 ― メコンの流れとともに」



『季刊民族学 144号』



『季刊民族学 145号』



『季刊民族学 146号』



『季刊民族学 147号』

- 3) 民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営
「友の会講演会」を大阪で12回、東京他で3回開催した。「みんなく見学会」2回、
「体験セミナー」1回、「民族学研修の旅」2回、ワークショップ1回を下記のとおり
実施した。

① 国立民族学博物館友の会講演会

大阪：毎月第1土曜日 14:00～15:00 国立民族学博物館（懇談会 15:10～16:10）

通算回数（開催日）：講師（所属） / 「演題」 / 参加人数

第418回（4月6日）：飯田卓（民博准教授）/特別展「マダガスカル」関連
「マダガスカル中央高地のザフィマニリ文化」/29名

第419回（5月4日）：ゴルダン・ニコロフ（民博外国人研究員）/
「マケドニアの陶器と食文化」/39名

第420回（6月1日）：菅瀬晶子（民博助教）/
「金曜日はムジャッダラの日 — アラビア語圏キリスト教徒の暮らし」/43名

第421回（7月6日）：野林厚志（民博教授）/新日本の文化展示関連
「罽獺のイノベーション — 動物との根比べ」/27名

第422回（8月3日）：池谷和信（民博教授）/新日本の文化展示関連
「日本の森とミツバチと人」/37名

第423回（9月7日）：伊藤敦規（民博助教）/みんなくコレクションを語る
「カチーナ人形の作り手たち — 40年後の「もの語り」の可能性」/37名

第424回（10月5日）：小島摩文（鹿児島純心女子大学教授）/
特別展「屋根裏部屋の博物館」関連「渋沢敬三の「民具」へのこだわり」/40名

第425回（11月2日）：小山修三（千里文化財団理事長、民博名誉教授）/
「くすりの民族学」/42名

第426回（12月7日）：信田敏宏（民博准教授）/フィールドワークを語る
「ドリアン王国探訪記」/32名

第427回（1月11日）：藤本透子（民博助教）/みんなくコレクションを語る
「中央アジアの民家の現在」/32名

第428回（2月1日）：関 雄二（民博教授）/
「神殿更新で社会が変わる — 南米アンデス文明の誕生」/32名

第429回（3月1日）：小長谷有紀（民博教授）/
「梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる」/52名

東京：14:00～15:00（懇談会 15:10～16:10）

通算回数（開催日）：講師（所属） /開催場所 /「演題」 /参加人数

第 106 回（ 6 月 30 日・日）：小長谷有紀（民博教授）/モンベル渋谷店 5F サロン/
「トゥバ人たちの住むところ — 21 世紀の「探検」談」/44 名

第 107 回（12 月 21 日・土）：三尾稔（民博准教授）/モンベル品川店 2F サロン/
「婚礼に映しだされるインドのいま」/24 名

第 108 回（ 3 月 9 日・日）：須藤健一（民博館長）/国立新美術館研修室/
「国立新美術館での「イメージの力」展にあたって」/46 名
※終了後、国立新美術館研究員による展示解説を開催



第 108 回東京講演会



第 108 回東京講演会（展示解説）

② みんぱく見学会 大阪：土曜日 15:10～16:10、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 /講師（所属） /参加人数

第 50 回（ 4 月 6 日）：特別展「マダガスカル」/飯田卓（民博准教授）/20 名

第 51 回（10 月 5 日）：特別展「屋根裏部屋の博物館」/
小島摩文（鹿児島純心女子大学教授）/36 名



第 50 回みんぱく見学会



第 51 回みんぱく見学会

③ 体験セミナー

通算回数（開催日）： 講師（所属） /開催地 /「タイトル」 /参加費 /参加人数

第 67 回（10 月 26 日・土、27 日・日）：日高真吾（民博准教授）/福井県/
「ニッポンの漆を考える ― 世界最古の漆発見の地・鳥浜貝塚と越前漆器」/
22,500 円/ 17 名



第 67 回体験セミナー



第 67 回体験セミナー

④ 民族学研修の旅

通算回数（開催期間）： 同行講師(所属) /タイトル /参加費(旅行日数・訪問地) /参加人数

第 82 回（7 月 9 日～20 日）：飯田卓（民博准教授）/
マダガスカルの森と海を訪ねる―サザンクロス街道をゆく/
523,000 円（12 日間・マダガスカル）/11 名

第 83 回（11 月 21 日～29 日）：樫永真佐夫（民博准教授）/
ベトナム西北部 少数民族の世界へ/ 295,000 円（9 日間・ベトナム）/17 名



第 83 回海外民族学研修の旅



第 83 回海外民族学研修の旅

⑤ ワークショップ

■ 〈親子で体験〉「泥ってすごい！おもしろい！ — すまい土を考える」

日本をはじめ世界各地には、土をすまいに活用している例が数多くある。土に草の繊維を混ぜたり、発酵させたりするなど、地域ごとに強度を増すためにさまざまな工夫をこらしてきた。今回は日本の土壁ぬりの体験を中心に、現役の左官職人に指導してもらい、親子でその技に触れてもらった。世界の他地域での土を活用したすまいの事例についても、スライドなどを用いて研究者によるミニレクチャーをおこない、比較しながら考えてもらう機会とした。

開催日：10月12日・土～13日・日

主 催：一般財団法人千里文化財団

助 成：独立行政法人日本万国博覧会記念機構

協 力：国立民族学博物館、左官を考える会、公益財団法人竹中大工道具館

【ワークショップ】

土壁ぬり体験/ミニかまどを作ろう/光る泥だんご作り（のべ 671 人）

【関連講座】

「世界の土壁の家、かまど」（104 人）



ワークショップ「ミニかまどを作ろう」



当日の会場の様子



ワークショップ「土壁ぬり体験」



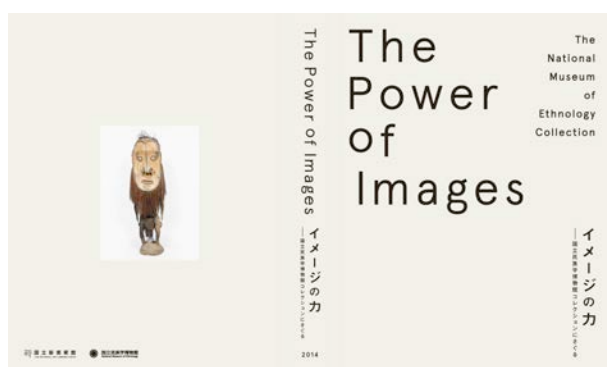
「光る泥だんご作り」

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業

- ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示ガイド』の編集協力・制作及び頒布
- ② 国立民族学博物館 特別展及び企画展の解説書の編集・制作及び頒布
- ③ 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布、
展示品のレプリカ・ポストカード、記念品等の制作及び頒布、
現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布
- ④ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの編集・発行及び頒布



「イメージの力」展カタログ



「イメージの力」展オリジナルグッズ



「2014年みんなくオリジナルカレンダー 植物とくらす」



来館 1000 万人達成記念 T シャツ

上記の教材等頒布については、来館者を対象とし博物館の利用に対して資料の情報の提供等多様な便宜をはかることを目的として運営しているミュージアム・ショップでおこなっている。

ミュージアム・ショップ 平成 25 年度 教材頒布内容

- ・レプリカ、ポストカード類
内容) 砂金の分銅、館銘石、儀礼用マント、ポストカード(134 種)
- ・現地産民族資料 (約 100 カ国)
内容) 芸能・儀礼資料 (仮面、楽器他)、生活資料 (衣類、嗜好品、装飾品、玩具他)
- ・民族学・文化人類学関連図書・映像音響資料
内容) 図書 約 4 千種、民族楽器等の CD・DVD 約 50 種
- ・記念品 (オリジナルグッズ)、便宜供与品
内容) クリアファイル、一筆箋、T シャツ、later セット、スタンプ、トートバッグ、切手、雨傘、乾電池他

2) 国立民族学博物館の普及事業

① 「国立民族学博物館友の会」の運営

「国立民族学博物館友の会」は、一般市民を対象とし、民族学・文化人類学及び国立民族学博物館の広報普及を目的とするとともに、国立民族学博物館と市民の間のかげはしとなる役目を担い、講演会や出版物等をととして博物館活動や研究成果を一般市民に紹介し、博物館の利用に対して便宜を図るため運営している。

② 「国立民族学博物館友の会」会員（維持会員・正会員・キャンパスメンバーズ・フリーパス）の増強

- ・平成 26 年 3 月現在の登録件数：維持会員（法人 75・個人 4）、
正会員（法人 302・個人 1481）、
キャンパスメンバーズ 4 校、
フリーパス（個人のみ 101）

- ・会員を対象にアンケートを 2 月に実施した。

- ・「友の会ニュース」7 号（212 号～218 号）の編集・発行

③ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務を受託し実施

3) 来館者の学習支援事業

一般市民を対象とし、博物館の利用に対して便宜をはかることを目的として実施している。

① 国立民族学博物館「展示解説シート」の編集協力、制作

「展示解説シート」東アジア 日本の文化・朝鮮半島の文化・中国の地域の文化

② 日本の文化展示の新構築に伴う解説文・キャプション等の校閲を受託し実施

③ 国立民族学博物館展示案内学習支援等業務を受託し実施

④ 国立民族学博物館研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施

⑤ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施

⑥ 関連催し物の開催支援及び運営事業

■ 研究公演の運営を受託し実施

・研究公演「のど歌のふるさと」に係る舞台進行業務

日時：9 月 8 日・日 13:30～16:00

司会：小長谷 有紀（民博教授）／解説：巻上 公一（音楽家）

出演：ボロット・バイルシェフ、タンダライ、オトクン・ドスタイ、アヤス・クーラル、
モングンオール・オンダール、アンザット・クーラル

・研究公演「雄勝法印神楽 みんぱく公演」に係るコーディネート業務

日時：11 月 23 日・土 13:30～16:00

司会：日高 真吾（民博准教授）／解説：小谷 竜介（東北歴史博物館副主任研究員）

出演：雄勝法印神楽衆



研究公演「のど歌のふるさと」広報チラシ



研究公演「雄勝法印神楽 みんぱく公演」広報チラシ

4) 国立民族学博物館活動に協力する事業

① 国立民族学博物館 特別展等に対する広報等の協力活動

国立民族学博物館 特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」(春開催)、「渋沢敬三 記念事業 屋根裏部屋の博物館 ATTIC MUSEUM」(秋開催)、国立新美術館「イメージの力 ― 国立民族学博物館コレクションにさぐる」(春開催)、埼玉県立歴史と民俗の博物館 特別展「渋沢敬三没後 50 周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 ATTIC MUSEUM」に対する協力として各種広報活動をおこなった。

② 博物館学コースにおけるミュージアム・レポート発表会の運営協力業務を受託し実施

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

① 出前授業プログラム開発及び普及

博物館は学校や地域活動における学習や教育の現場として、ますます期待されている。従来どおりの来館による博物館利用だけにとどまらず、館外においても、博物館の有する学習・教育に関する情報やプログラムを利用できるよう、千里文化財団では、国立民族学博物館の協力のもと、出前授業プログラムの開発と実施を推進している。

対象：小中学校の授業、放課後教室。教員や放課後教室などの地域指導者への研修。

平成 25 年度の実施内容

実施日：実施場所 / プログラム内容 / 参加人数

- ・ 5 月 14 日 (火)：茨木市立沢池小学校 / 風呂敷 / 113 名
- ・ 6 月 20 日 (木)：豊中リタイアメントセンター / 風呂敷 / 20 名
- ・ 7 月 12 日 (金)：向日市立第四向陽小学校 / 風呂敷 / 88 名
- ・ 8 月 6 日 (火)：京都府学び教室研修 (京田辺) / 風呂敷・ブーメラン / 45 名
- ・ 8 月 19 日 (月)：大阪市内代小学校 / 風呂敷 / 30 名
- ・ 10 月 3 日 (木)：吹田市山二地区公民館 / 風呂敷 / 21 名
- ・ 11 月 26 日 (火)：京都府学び教室研修 (綾部) / 風呂敷 / 20 名
- ・ 12 月 11 日 (水)：伊丹市定時制高等学校 / 風呂敷 / 25 名
- ・ 12 月 14 日 (土)：長岡京市内小学校 / ブーメラン / 30 名



出前授業の様子



出前授業の様子

2) 各地の博物館展示案内等の編集業務

一般市民を対象とし、博物館等に蓄積された資料や情報を多くの市民に提供し利用に際し便宜を図ることを目的として、博物館展示ガイドの編集協力等をおこなう。

- ① 日本生命財団から、富山市科学博物館展示案内『水と風がつくる自然』の編集協力を受託し実施
(日本生命財団助成による「博物館総合案内・展示案内シリーズ」は、1983年に刊行されてから、日本各地の博物館60館をとりあげている。)
- ② 大分県立歴史博物館から、『大分県立歴史博物館総合案内』改訂版の編集協力を受託し実施



富山市科学博物館展示案内
『水と風がつくる自然』

4. 文化施設と連携した利用促進及び地域活性化事業

博物館及び周辺施設に集積された資料や情報を活かしながら、各施設と連携し一般市民に情報を享受する機会を創出する。

1) 万博公園賑わい創出支援事業の実施

一般市民を対象とし、国立民族学博物館及び万博記念公園をひろく広報してより多くの利用を促進するため広報イベントを企画・実施。公園内の各施設にスタンプ台を設置し、「万博・民博ものがたり」と題するスタンプラリーを開催。本年は「ひと」をテーマに、民博と万博をつなぐ歴史ものがたりを一般の利用者に周知した。会期を民博の特別展にあわせ、スタンプの図案に特別展の展示資料を用いた。また、本企画とあわせて、JR西日本管轄駅にブースを設け、国立民族学博物館および万博記念公園をひろく紹介した。

■ スタンプラリー「万博・民博ものがたり」

会期：9月19日(木)～12月3日(火)(68日間)

会場：万博記念公園内各施設(国立民族学博物館、EXPO'70パビリオン、大阪日本民芸館ほか)

広報活動：JR大阪駅

主催：一般財団法人千里文化財団

助成：独立行政法人日本万国博覧会記念機構

協力：国立民族学博物館

参加人数：約30,000人



スタンプラリー「万博・民博ものがたり」スタンプ帳(表面と裏面)



万博・民博の広報活動の様子
(JR大阪駅構内)



万博・民博の広報活動の様子
(JR大阪駅構内)



スタンプ台(設置場所：民博)

- 2) 季刊誌『森発見』の編集・制作（第30号～第33号の編集を大阪府から受託し実施）
 季刊誌『森発見』：「自立した森再生センター」の活動を紹介した広報誌。「自立した森再生センター」は、日本万国博覧会（70年万博）跡地を「自立した森」として再生させる活動を強化するために、平成18年に設立。研究機関や民間団体等との連携により長期的な計画性をもった活動を進めている。

特集 第30号 特集「森から何を学ぶのか」
 第31号 特集「『心の森』を育む」
 第32号 特集「都市近郊に憩いの森をつくる」
 第33号 特集「私たちの丈夫な森を目指して」



『森発見 30号』



『森発見 31号』



『森発見 32号』



『森発見 33号』

5.文化活動支援事業

各種文化活動を支援することにより、多様な文化の浸透をめざす。

- 1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務
 第22回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施
 「松下幸之助花の万博記念賞」：「自然と人間の共生」という花の万博の基本理念の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰
- 2) 日本展示学会の事務業務
 日本展示学会の事務業務を受託し実施
 日本展示学会：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。1982年に、国立民族学博物館において設立された。
- 3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行
 同人雑誌『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌
 第122号～第125号の4号の編集を受託し発行



松下幸之助花の万博記念賞
 授賞式の案内ポスター



日本展示学会学会誌
 『展示学』



同人雑誌『千里眼』

貸借対照表

平成26年3月31日 現在

科目	金額	
I 資産の部	円	円
1. 流動資産		
(1) 現金預金	7,365,871	
(2) 未収入金	18,429,964	
(3) 貯蔵品	51,218,792	
流動資産合計		77,014,627
2. 固定資産		
基本財産		
(1) 基本財産特定資産	25,500,000	
基本財産合計		25,500,000
その他の固定資産		
(1) 設備造作	116,795	
(2) 車輛	448,034	
(3) 什器備品	174,637	
(4) 電話加入権	594,951	
(5) ソフトウェア	20,630	
(6) 差入保証金	1,100,000	
その他の固定資産合計		2,455,047
固定資産合計		27,955,047
資産合計		104,969,674

科目	金額	
II 負債の部	円	円
1. 流動負債		
(1) 未払金	93,978,382	
(2) 前受金	515,500	
(3) 預り金	269,996	
流動負債合計		94,763,878
負債合計		94,763,878
III 正味財産の部		
正味財産		10,205,796
負債及び正味財産合計		104,969,674

貸借対照表明細表

平成26年3月31日 現在

科 目	金 額		
	実施事業	法人会計	合 計
	円	円	円
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	6,644,906	720,965	7,365,871
(2) 未収入金	18,429,964		18,429,964
(3) 貯蔵品	51,218,792		51,218,792
流動資産合計	76,293,662	720,965	77,014,627
2. 固定資産			
基本財産			
(1) 基本財産特定資産		25,500,000	25,500,000
基本財産合計		25,500,000	25,500,000
その他の固定資産			
(1) 設備造作	116,795		116,795
(2) 車輛	448,034		448,034
(3) 什器備品	174,637		174,637
(4) 電話加入権	594,951		594,951
(5) ソフトウェア	20,630		20,630
(6) 差入保証金	1,100,000		1,100,000
その他の固定資産合計	2,455,047		2,455,047
固定資産合計	2,455,047	25,500,000	27,955,047
資産合計	78,748,709	26,220,965	104,969,674
II 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 未払金	92,546,816	1,431,566	93,978,382
(2) 前受金	515,500		515,500
(3) 預り金	269,996		269,996
流動負債合計	93,332,312	1,431,566	94,763,878
負債合計	93,332,312	1,431,566	94,763,878
III 正味財産の部			
正味財産	△ 14,583,603	24,789,399	10,205,796
(うち当期正味財産増加額)	(△ 23,989,385)	(24,789,399)	(800,014)
負債及び正味財産合計	78,748,709	26,220,965	104,969,674